

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年10月24日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-309489

[ST.10/C]:

[JP2002-309489]

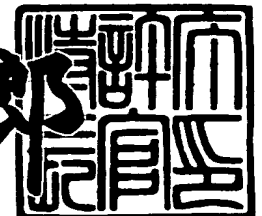
出 願 人
Applicant(s):

ダイワ精工株式会社

2003年 6月 2日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3041724

【書類名】 特許願

【整理番号】 P02-068

【提出日】 平成14年10月24日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A01K 89/015

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

 【氏名】 大石 晴通

【特許出願人】

 【識別番号】 000002495

 【氏名又は名称】 ダイワ精工株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100097559

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 水野 浩司

 【電話番号】 0352922646

【選任した代理人】

 【識別番号】 100101889

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 中村 俊郎

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 108122

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 0010879

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 魚釣用リール

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 リール本体に設けられたスプールに、リール本体の側部に設けられた巻取り駆動機構のハンドルの回転操作で釣糸案内部を介してスプールに釣糸を巻回する魚釣用リールにおいて、

前記ハンドルの回転操作で連動回転する回転体に、一方向クラッチを介して釣糸巻取り用の補助操作部材を設けると共に、釣竿を保持した手の指で操作可能な位置に前記補助操作部材の操作部を設け、

前記操作部の操作によって前記スプールに釣糸を補助的に巻回可能としたことを特徴とする魚釣用リール。

【請求項 2】 前記補助操作部材の操作部は、リール本体を構成する左右側板間に回動可能に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の魚釣用リール。

【請求項 3】 前記補助操作部材の操作部は、レバー形状に形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の魚釣用リール。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、リール本体の側板間に釣糸が巻回されるスプールを回転自在に支持した魚釣用リールに関し、特に、ルアーフィッシングに適した魚釣用リールに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、釣法の一つとして、ルアーと称される疑似餌にアクションを与えて魚を釣るルアーフィッシングが知られており、例えば、特許文献 1 や特許文献 2 に開示されているような構成の魚釣用リールが使用されている。このルアーフィッシングにおいて、通常、魚は一定のスピードと動きをするものにあまり興味を示さない習性があることから、ロッド及びリールの操作によってルアーを止めたり、

動かしたりする等のアクションを与えることが行なわれている。

【0003】

この場合の操作の一つとして、キャスト後にロッドを引き上げてルアーにアクションを与え、その引き上げた分の釣糸を、ロッドを下げながら糸ふけが生じないようにハンドルを回転操作してスプールに巻回することがある。そして、釣人は、この一連のルアーアクション（仕掛けの巻取り誘導操作）を、釣場の状況に応じて何回も繰り返し行い、魚のヒッティングを待つことになる。

【0004】

【特許文献1】

特許第3009074号公報

【特許文献2】

特許第3025172号公報。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、上記した構成の魚釣用リールでルアーフィッシングを行う場合、釣人は、上記したルアーアクション操作を、リールを握持保持した手によるロッド操作と、反対側の手による巻取り回転操作とを使い分けて行わなければならない、キャスト操作後のロッドを操作する腕が伸びきっている状態や、ハンドルが下側に向いている状態（手首の関係上、ロッドと共に保持しているハンドルは下側を向き易い）では、他方の手が不自然な位置となって、容易かつ微妙なハンドル回転操作、すなわち巻取り操作が行えない、という不具合がある。

【0006】

また、釣場の障害物やハンドル側の手で物を持っている場合、或いは片方の手で釣竿を支え、他方の手で魚を取り込むための手網を持っている場合等、手がふさがってしまい、ハンドル側の手で巻取り操作ができない状況が発生することもある。

【0007】

本発明は、上記したような問題に基づいてなされたものであり、実釣時において、ルアーアクション操作を支障無く行える魚釣用リールを提供することを目的

とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記した目的を達成するために、本発明に係る魚釣用リールは、リール本体に設けられたスプールに、リール本体の側部に設けられた巻取り駆動機構のハンドルの回転操作で釣糸案内部を介してスプールに釣糸を巻回するよう構成されており、前記ハンドルの回転操作で連動回転する回転体に、一方向クラッチを介して釣糸巻取り用の補助操作部材を設けると共に、釣竿を保持した手の指で操作可能な位置に前記補助操作部材の操作部を設け、前記操作部の操作によって前記スプールに釣糸を補助的に巻回可能としたことを特徴とする。

【0009】

上記した構成の魚釣用リールによれば、キャスティング操作を行った後、釣竿を握持保持している側の手の指で補助操作部材の操作部を操作することにより、そのままスピールの巻取り操作が行えるようになる。すなわち、釣竿を操作する腕の伸縮状態や、その腕の手首の状態に何等影響を受けることなく、釣竿を握持保持している側の手の指による操作で、容易かつ微妙な釣糸の巻取り操作が行えるようになる。また、補助操作部材には、一方向クラッチが介在されていることから、ハンドルを巻取り操作した際の駆動力が補助操作部材に伝達されることはなく、ハンドルの巻取り操作時に補助操作部材が駆動されることはない。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る魚釣用リールの実施形態について、添付図面を参照して具体的に説明する。

図1～図4は、本発明に係る魚釣用リールの第1の実施形態を示す図であり、図1は平面図及び主要部を拡大して示す図、図2は側板を外してハンドル側から見た側面図、図3は補助操作部材の部分を拡大して示す図、そして、図4は操作状態を示す図である。

【0011】

本実施形態の魚釣用リールのリール本体1は、フレーム2の左右枠2a、2b

に対し、所定の空間をもって装着される左右側板 3 a, 3 b を備えており、一方の側板側（本実施形態では左側板 3 a 側）には、ハンドル 5 を装着したハンドル軸 6 が回転可能に支持されている。

【0012】

左右側板 3 a, 3 b 間には、釣糸が巻回されるスプール 7 が取り付けられたスプール軸 8 が回転可能に支持されており、スプール 7 は、前記ハンドル軸 6 に取り付けられている駆動歯車 10、及びスプール軸 8 に取り付けられているピニオン 12 を具備した巻取り駆動機構 13 を介して、ハンドル 5 の回転操作によって回転駆動されるように構成されている。

【0013】

上記したハンドル軸 6 には、スプール 7 に対する制動力を調節する公知のドラッグ機構を操作するための回転体 15（ドラッグ調節体）が設けられており、この回転体 15 を回転操作することにより、釣糸繰出時のスプール回転に所望の制動力が付与されるようになっている。

上記したリール本体 1 のスプール 7 前方における左右側板 3 a, 3 b 間には、巻取り駆動機構 13 に歯車伝達機構 A1～A4 を介して連動回転し、スプール 7 に釣糸を平行に巻回するよう左右に往復動するレベルwind装置 20 を構成する駆動軸 21 が回転自在に支持されている。この駆動軸 21 の外周には、釣糸案内体 22 が回り止め係合される螺旋溝 21 a が形成されており、駆動軸 21 が回転駆動された際、釣糸案内体 22 を左右に往復動し、釣糸をスプール 7 に均等に巻回するようになっている。

【0014】

前記ハンドル軸 6 は、一端部が左枠 2 a に対して軸受 23 によって回転可能に支持されると共に、ハンドル軸 6 には、軸受 23 に隣接して配設された一方向クラッチ 25 を介して補助操作部材 30 が装着されている。この補助操作部材 30 は、左側板 3 a の下面に形成された開口 3 c を介してリール本体の下方に突出するレバー状の操作部 31 を備えており、この操作部 31 は、リール本体内に設けられた付勢バネ 32 により、常時、前方側に向けて回動付勢されている。

【0015】

前記一方向クラッチ 2 5 は、補助操作部材 3 0 に嵌合される外輪 2 6 と、保持器 2 7 に保持された複数のコロ 2 8 とを備えており、補助操作部材 3 0 の操作部 3 1 が付勢バネ 3 2 の付勢力によって前方に付勢されている状態では、ハンドル軸 6 が巻取り駆動された際（図 3 において反時計方向の回転）、コロ 2 8 は外輪 2 6 の自由回転領域に位置して、その回転駆動力は補助操作部材 3 0 に伝達されず、また、補助操作部材 3 0 の操作部 3 1 を付勢バネ 3 2 の付勢力に抗して移動操作（後方に牽引操作）すると、コロ 2 8 は外輪 2 6 の楔領域に位置して、操作部 3 1 の回動を、一方向クラッチ 2 5 を介してハンドル軸 6 に伝達するようになっている。

【 0 0 1 6 】

上記のように構成された補助操作部材 3 0 を設けたことにより、公知のクラッチ機構 K をスプールフリー状態に切換えてキャスティング操作を行った後、ルアーアクションを行うに際して、ロッド R と共にリール本体の反ハンドル側側板 3 b を握持保持している手の指 H（人差し指、中指、薬指）でレバー状の操作部 3 1 を付勢バネ 3 2 の付勢力に抗して牽引操作することが可能となり、このような牽引操作を行うことで、前記一方向クラッチ 2 5 を介して、その回動力がハンドル軸 6 に伝達されることから、クラッチ機構がスプールフリー状態から巻取り状態に切換えられると共に、そのまま連続してスプール 7 の微妙な巻取り操作（巻取り補助操作）が行えるようになる。すなわち、ロッド R を操作する腕の伸縮状態や、その腕の手首の状態に何等影響を受けることなく、リール本体 1 を握持保持している手の指による操作で、安定した保持状態を維持しながら微妙な釣糸の巻取り操作が迅速且つ容易に行えるようになる。特に、巻回操作を行う操作部分をレバー形状にしたことで、釣竿を保持した手の指が優しくフィットすることができ、牽引操作が容易に行えるようになる。

【 0 0 1 7 】

また、補助操作部材 3 0 を、一方向クラッチ 2 5 を介在させて、スプール 7 を駆動する回転軸に設けたため、ハンドル 5 を巻取り操作してスプール 7 に釣糸を巻回する時には、補助操作部材 3 0 が連動することはなく、魚釣り用リール全体として操作性の向上が図れる。

【 0 0 1 8 】

上記したスプール 7 を補助的に巻回駆動する補助操作部材については、反ハンドル側の手の指によって操作が可能であれば、リール本体の様々な位置に配設することが可能である。以下、そのように構成した実施形態について説明する。

なお、以下の実施形態では、上記実施形態と同一の構成部材については、同一の参照符号を付し、その説明を省略、又は簡略化する。

【 0 0 1 9 】

図 5 ～図 7 は、本発明に係る魚釣用リールの第 2 の実施形態を示す図であり、図 5 は平面図及び主要部を拡大して示す図、図 6 は反ハンドル側から見た図、そして、図 7 は補助操作部材の構造を拡大して示す図である。

【 0 0 2 0 】

本実施形態では、左側板 3 a の後方側に配設されているハンドル軸 6 に同軸上で一体回転可能な延出部 3 3 を形成し、この延出部 3 3 の先端を右枠 2 b から突出させると共に、その突出端に、上記同様、一方向クラッチ 3 5 を介して、レバー状の操作部 3 9 を具備した補助操作部材 3 7 を支持したものである。延出部 3 3 は、両側枠 2 a, 2 b において軸受 3 8 を介して回転可能に支持されており、補助操作部材 3 7 の操作部 3 9 は、反ハンドル側側板 3 b の下面後方に形成された開口部を介して外部に突出している。そして、この操作部 3 9 は、反ハンドル側側板 3 b を握持保持した状態の手の指（主に中指又は薬指）で回転操作可能な大きさと位置に形成されている。

【 0 0 2 1 】

また、本実施形態における補助操作部材 3 7 の操作部 3 9 は、図 7 に示すように、補助操作部材 3 7 の本体に対して着脱可能に構成されている。具体的には、操作部 3 9 には、軸方向に延出する溝 3 9 a によって弾性変形可能な弾性係止部 3 9 b が形成されており、操作部 3 9 の基端側を摘むことによって、本体の係止部 3 7 a から取外し可能に構成されている。また、操作部 3 9 は、リール本体内に設けられた付勢バネ（図示せず）により、常時、前方側に向けて付勢されている。

【 0 0 2 2 】

前記一方クラッチ 3 5 は、補助操作部材 3 7 に嵌合される外輪 4 0 と、保持器 4 1 に保持された複数のコロ 4 2 とを備えており、前記実施形態と同様、補助操作部材 3 7 の操作部 3 9 が付勢バネの付勢力によって前方に付勢されている状態では、延出部 3 3 がハンドル軸 6 の巻取り駆動と共に回転駆動されても（図 7 において時計方向の回転）、その回転駆動力は補助操作部材 3 7 に伝達されず、また、操作部 3 9 を付勢バネの付勢力に抗して移動操作（後方に牽引操作）すると、その回転は、延出部 3 3 を介してハンドル軸 6 に伝達されるようになっている。

【 0 0 2 3 】

このように、補助操作部材は、ハンドル側側板のみならず、反ハンドル側側板 3 b の適所に設けることが可能であり、このような構成においても、前記実施形態と同様な作用効果が得られる。なお、操作部 3 9 を補助操作部材 3 7 の本体に対して着脱可能に構成したことで、特に、スプール 7 の補助的巻回操作を必要としない釣法においても、支障なく利用することが可能となる。

【 0 0 2 4 】

図 8 ～図 1 2 は、本発明に係る魚釣り用リールの第 3 の実施形態を示す図であり、図 8 は平面図、図 9 は図 8 の A - A 線に沿った断面図、図 1 0 は図 8 の B - B 線に沿った断面図、図 1 1 は補助操作部材の構成を示す平面断面図、そして、図 1 2 は、図 1 1 の C - C 線に沿った断面図である。

【 0 0 2 5 】

本実施形態の魚釣り用リール 1 は、右側板 3 b 側にハンドル 5 を装着したハンドル軸 6 が回転可能に支持されている。ハンドル軸 6 には、駆動歯車 1 0 と隣接して歯車 5 0 が設けられており、この歯車 5 0 は、レベルワインド装置 2 0 を構成する駆動軸 2 1 の端部に取り付けられた歯車 5 2 と噛合している。この歯車 5 2 は、フレームの右枠 2 b に一体回転可能に併設支持された歯車 5 3、5 4 の内、ハンドル側の歯車 5 3 に噛合している。

【 0 0 2 6 】

また、左右側板 3 a、3 b 間には、スプール 7 の上方位置において補助操作部材 5 5 が回転可能となるように配設されている。この補助操作部材 5 5 は、左右

の枠 2 a, 2 b 間に回転可能に支持された回転軸 5 6 に囲繞するように設けられており、図に示すように、指で後方側に倒伏操作可能なレバー状の操作部 5 8 を左右枠間に亘って幅広状に備えている。なお、この操作部 5 8 は、一端 5 9 a が右枠 2 b に取り付けられた付勢バネ 5 9 によって、常時、前方側に回転する方向に付勢されている。そして、回転軸 5 6 は、右枠 2 b からハンドル側に突出しており、その突出端には前記歯車 5 4 と噛合する歯車 6 0 が取り付けられている。

【 0 0 2 7 】

前記補助操作部材 5 5 と回転軸 5 6 との間には、一方向クラッチ 6 2 が介在されている。この一方向クラッチ 6 2 は、補助操作部材 5 5 に嵌合される外輪 6 3 と、保持器 6 4 に保持された複数のコロ 6 5 とを備えており、前記実施形態と同様、補助操作部材 5 5 の操作部 5 8 が付勢バネ 5 9 の付勢力によって前方に付勢されている状態では、ハンドル軸 6 が回転駆動されても（図 9 において時計方向の回転）、その回転駆動力は補助操作部材 5 5 に伝達されず、また、操作部 5 8 を付勢バネ 5 9 の付勢力に抗して移動操作（後方に倒伏操作）すると、その回転は、上記した歯車 6 0, 5 4, 5 3, 5 2, 5 0 を介してハンドル軸 6 に伝達されるようになっている。

【 0 0 2 8 】

このような構成においても、上記した実施形態と同様な作用効果が得られる。また、補助操作部材 5 5 をリール本体の両側板間に配設したことで、リール本体における突出部を少なくすると共に、側板間のデッドスペースを有効に活用して補助操作部材を配設することができ、さらに、リール本体を包み込むように握持保持した際、操作が行ない易い両側板間に補助操作部材 5 5 を横架したことで、キャストイング後に、安定した状態でスプールの微妙な巻取り操作が行えるようになる。つまり、リール本体を保持する右手又は左手の両方の手の指で容易に巻取り補助操作が行なえるようになる。

【 0 0 2 9 】

図 1 3 ～図 1 5 は、本発明に係る魚釣り用リールの第 4 の実施形態を示す図であり、図 1 3 は平面図及び主要部を拡大して示す図、図 1 4 は反ハンドル側から見た部分断面図、そして、図 1 5 は補助操作部材の構造を拡大して示す図である。

【 0 0 3 0 】

本実施形態の魚釣用リールは、スプール 7 の前方に配設されたレベルワインド装置 2 0 を構成する駆動軸 2 1 の右枠 2 b から突出する部分に、抜け止め止め輪 7 0 を介して歯車 7 1 が装着されている。この歯車 7 1 には、右枠 2 b に回転可能に支持された歯車 7 3 が噛合しており、この歯車 7 3 には、一方向クラッチ 7 5 を介在して、補助操作部材 8 0 が回転可能となるように配設されている。

【 0 0 3 1 】

前記補助操作部材 8 0 は、右側板 3 b の下面に形成された開口 3 d を介してリール本体の下方に突出するレバー状の操作部 8 1 を備えており、この操作部 8 1 は、リール本体内に設けられた付勢バネ 8 2 により、常時、前方側に向けて回動付勢されている。前記一方向クラッチ 7 5 は、補助操作部材 8 0 に嵌合される外輪 7 6 と、保持器 7 7 に保持された複数のコロ 7 8 とを備えており、補助操作部材 8 0 の操作部 8 1 が付勢バネ 8 2 の付勢力によって前方に回動付勢されている状態では、ハンドル軸 6 が巻取り駆動されても、その回転駆動力は補助操作部材 8 0 に伝達されず、また、補助操作部材 8 0 の操作部 8 1 を付勢バネ 8 2 の付勢力に抗して移動操作（後方に牽引操作）すると、操作部 8 1 の回動を、前記歯車 7 3、7 1、及び上述した歯車伝達機構 A 4 ～ A 1（図 2 参照）を介してハンドル軸 6 に伝達するようになっている。

【 0 0 3 2 】

このような構成においても、上述した実施形態と同様な作用効果が得られる。なお、本実施形態においても、操作部 8 1 は、補助操作部材 8 0 の本体に対して螺合結合されて着脱可能に構成されており、スプール 7 の補助的巻回操作を必要としない釣法においても、支障なく利用することが可能となっている。

【 0 0 3 3 】

図 1 6 ～ 図 1 8 は、本発明に係る魚釣用リールの第 5 の実施形態を示す図であり、図 1 6 は平面図及び主要部を拡大して示す図、図 1 7 は反ハンドル側から見た部分断面図、そして、図 1 8 は補助操作部材の構造を拡大して示す図である。

【 0 0 3 4 】

本実施形態の魚釣用リールは、駆動歯車 1 0 に噛合するピニオン 1 2 の軸上に

、一方向クラッチ 8 5 を介して補助操作部材 9 0 が装着されている。この補助操作部材 9 0 は、左側板 3 a の上面に形成された開口 3 e を介してリール本体の上方に突出するレバー状の操作部 9 1 を備えており、この操作部 9 1 は、一端が左側板 3 a に取り付けられた付勢バネ 9 2 により、常時、前方側に向けて回動付勢されている。

【 0 0 3 5 】

前記一方向クラッチ 8 5 は、補助操作部材 9 0 に嵌合される外輪 8 6 と、保持器 8 7 に保持された複数のコロ 8 8 とを備えており、補助操作部材 9 0 の操作部 9 1 が付勢バネ 9 2 の付勢力によって前方に付勢されている状態では、ハンドル軸 6 が巻取り駆動されても、その回転駆動力は補助操作部材 9 0 に伝達されず、また、補助操作部材 9 0 の操作部 9 1 を付勢バネ 9 2 の付勢力に抗して移動操作（後方に牽引操作）すると、操作部 9 1 の回動を、そのままスプール軸 8 に伝達するようになっている。

このような構成においても、上述した実施形態と同様な作用効果が得られる。

【 0 0 3 6 】

以上、本発明の実施形態について説明したが、上述した一方向クラッチを介在して配設される補助操作部材は、ハンドルを巻取り駆動した際に、回転駆動される各所の回転軸（歯車のような回転体を含む）上に設けることが可能であり、その操作部は、反ハンドル側の手の指の操作で操作可能な位置に設けられていればリール本体の適所に設けることが可能である。また、補助操作部材や操作部の形状及びその操作方法については、上記したレバー形状で牽引操作する以外にも、例えば、外周凹凸部を有するダイヤル式にして回動操作したり、或いは円形状の操作部外周にゴムやコルク等を設けて構成する等、適宜変形することが可能である。

【 0 0 3 7 】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の魚釣り用リールによれば、釣竿を保持した手の指で補助操作部材を移動操作することで、リールを安定して保持した状態を維持しながら、ルアーアクション操作を迅速かつ容易に行えるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る魚釣用リールの第 1 の実施形態を示す平面図及び主要部を拡大して示す図。

【図 2】

図 1 に示す魚釣用リールの側板を外してハンドル側から見た側面図。

【図 3】

補助操作部材の部分を拡大して示す図。

【図 4】

図 1 に示す魚釣用リールの操作状態を示す図。

【図 5】

本発明に係る魚釣用リールの第 2 の実施形態を示す平面図及び主要部を拡大して示す図。

【図 6】

図 5 に示す魚釣用リールを反ハンドル側から見た図。

【図 7】

補助操作部材の構造を拡大して示す図。

【図 8】

本発明に係る魚釣用リールの第 3 の実施形態を示す平面図。

【図 9】

図 8 の A - A 線に沿った断面図。

【図 1 0】

図 8 の B - B 線に沿った断面図。

【図 1 1】

補助操作部材の構成を示す平面断面図。

【図 1 2】

図 1 1 の C - C 線に沿った断面図。

【図 1 3】

本発明に係る魚釣用リールの第 4 の実施形態を示す平面図及び主要部を拡大し

て示す図。

【図 1 4】

図 1 3 に示す魚釣用リールを反ハンドル側から見た部分断面図。

【図 1 5】

補助操作部材の構造を拡大して示す図。

【図 1 6】

本発明に係る魚釣用リールの第 5 の実施形態を示す平面図及び主要部を拡大して示す図。

【図 1 7】

図 1 6 に示す魚釣用リールを反ハンドル側から見た部分断面図。

【図 1 8】

補助操作部材の構造を拡大して示す図。

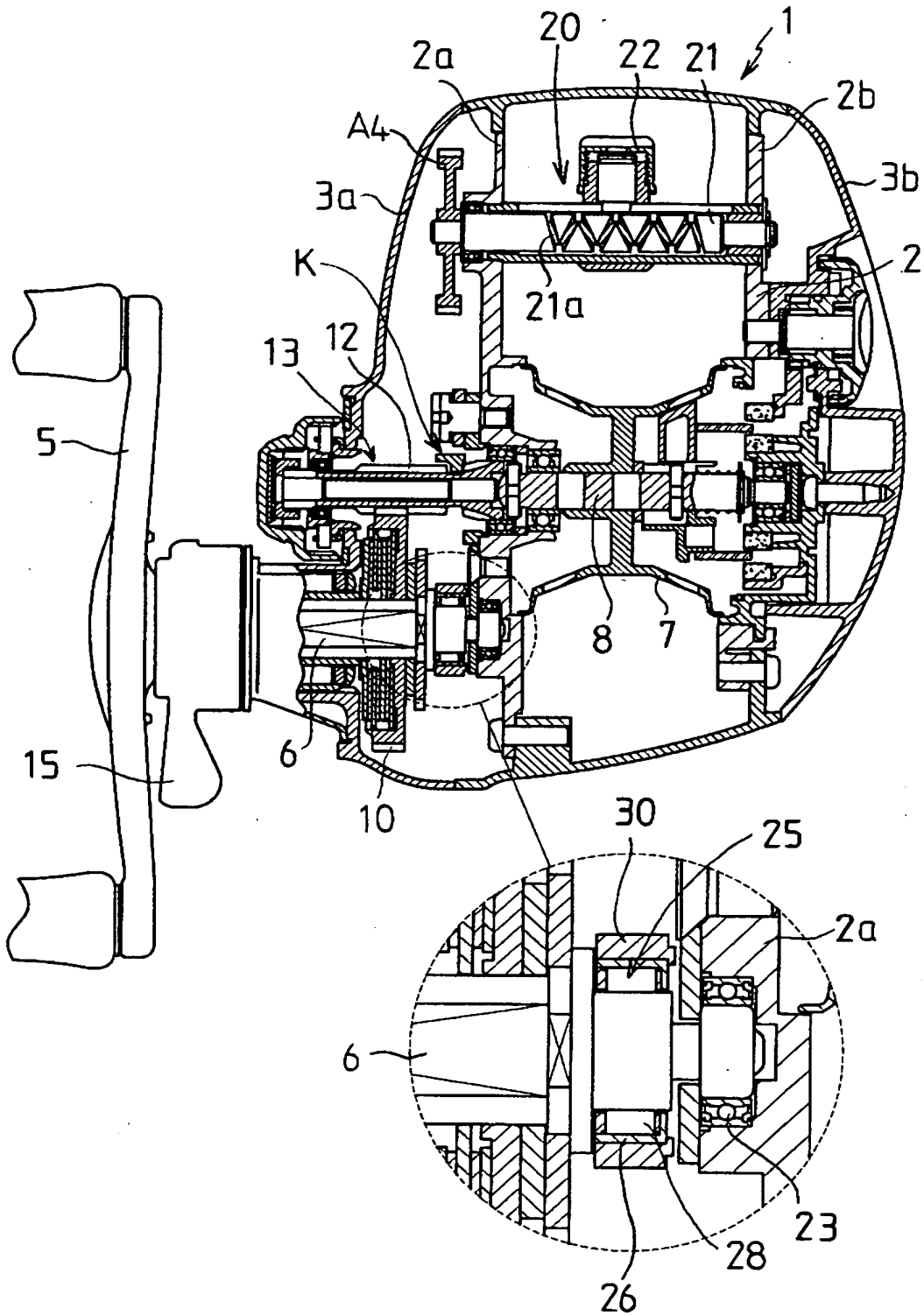
【符号の説明】

- 1 リール本体
- 3 a, 3 b 側板
- 5 ハンドル
- 7 スプール
- 1 3 巻取り駆動機構
- 2 2 釣糸案内部
- 2 5, 3 5, 6 2, 7 5, 8 5 一方向クラッチ
- 3 0, 3 7, 5 5, 8 0, 9 0 補助操作部材
- 3 1, 3 9, 5 8, 8 1, 9 1 操作部

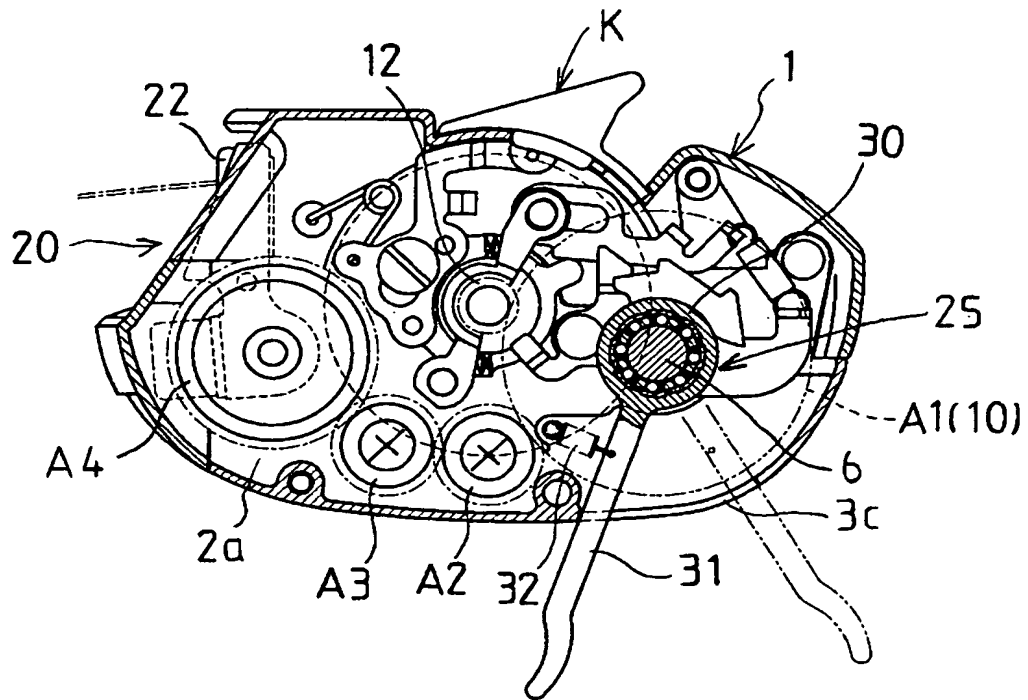
【書類名】

図面

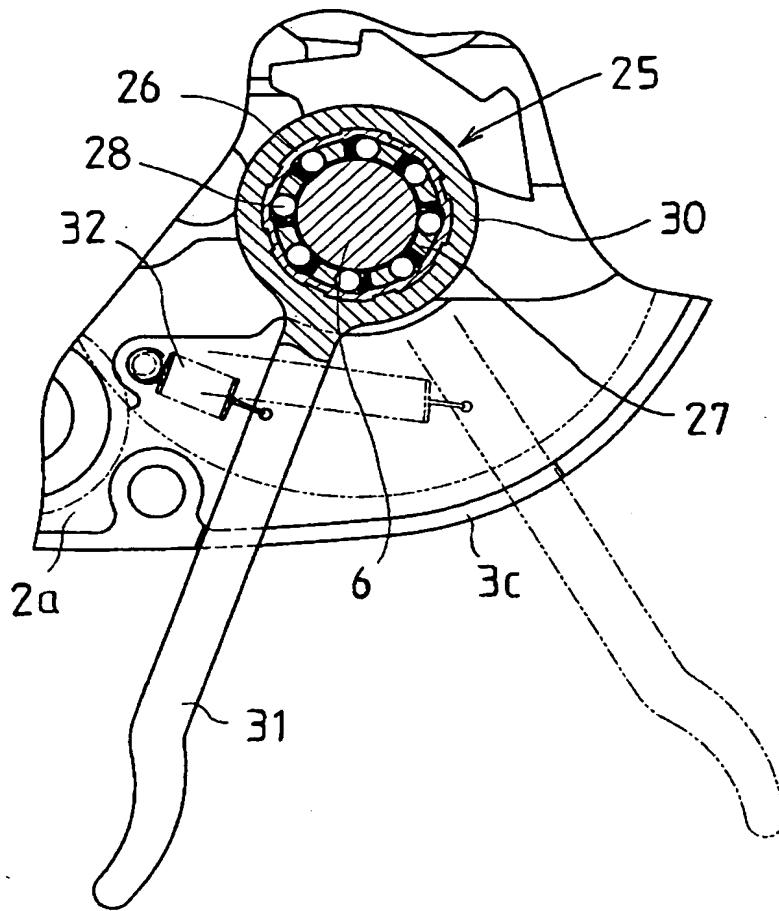
【図 1】



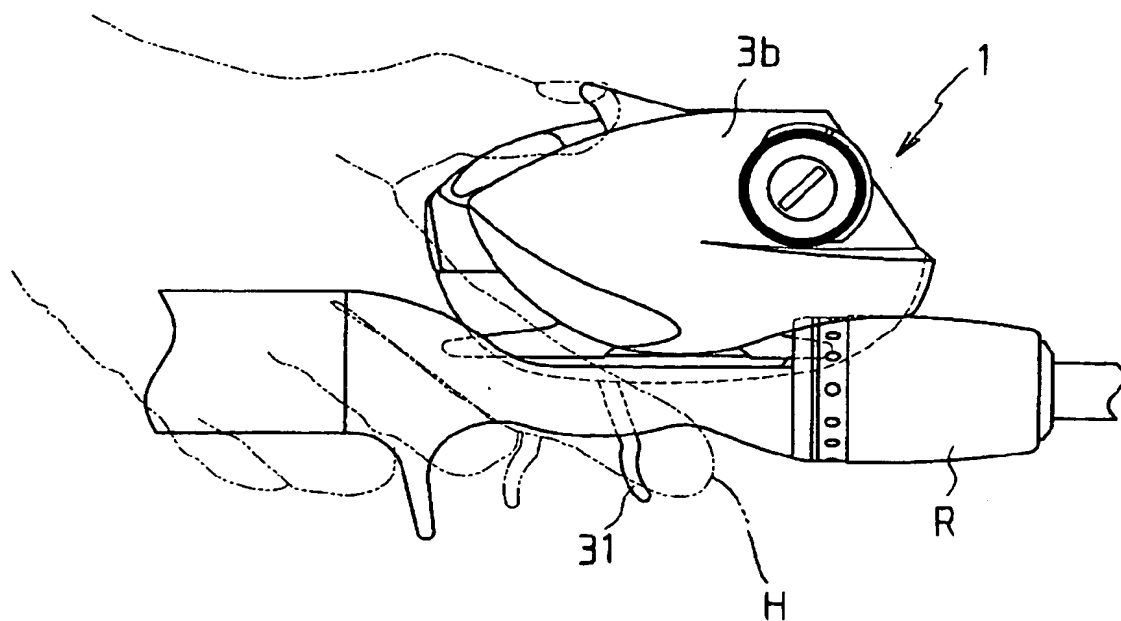
【図 2】



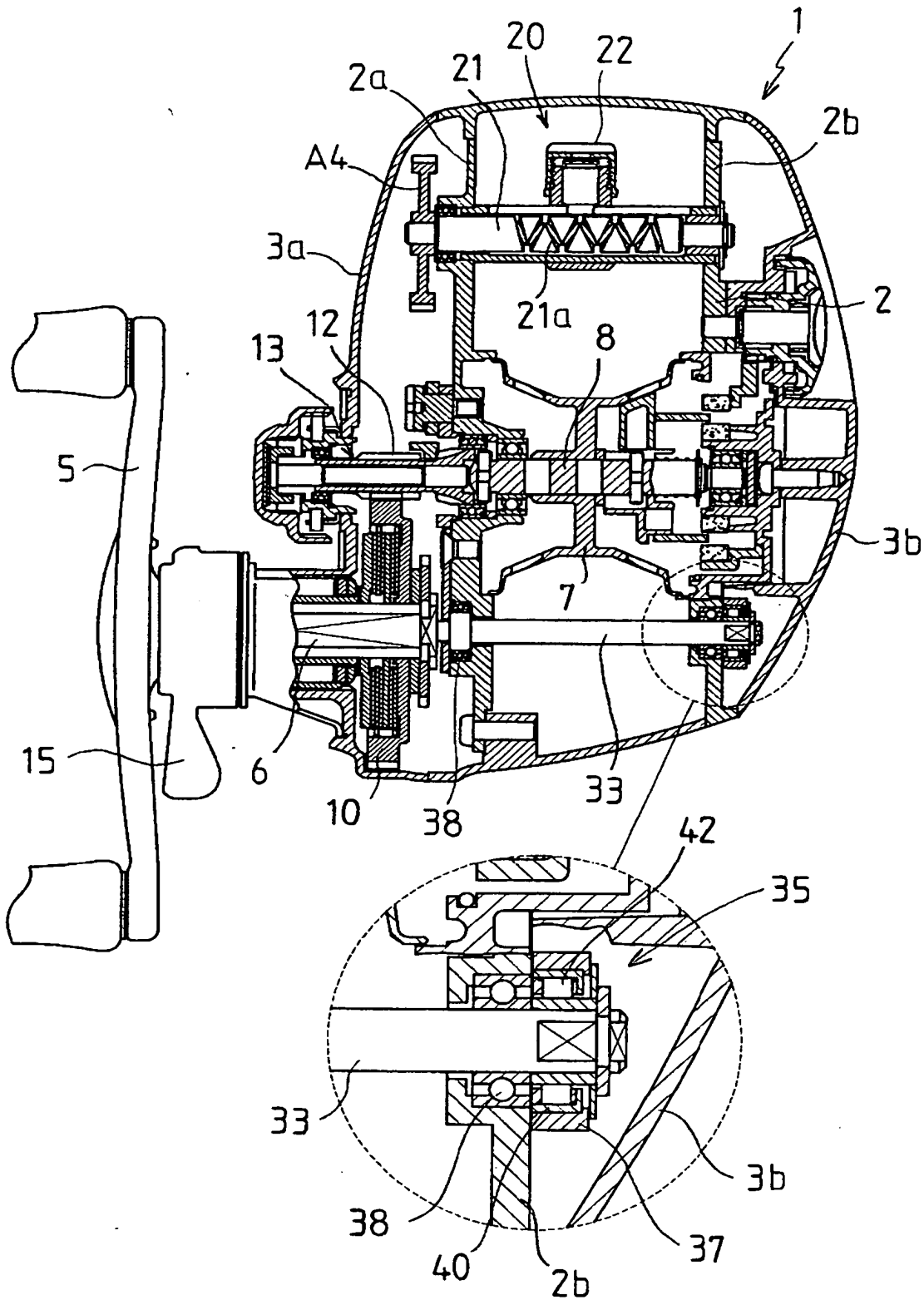
【図 3】



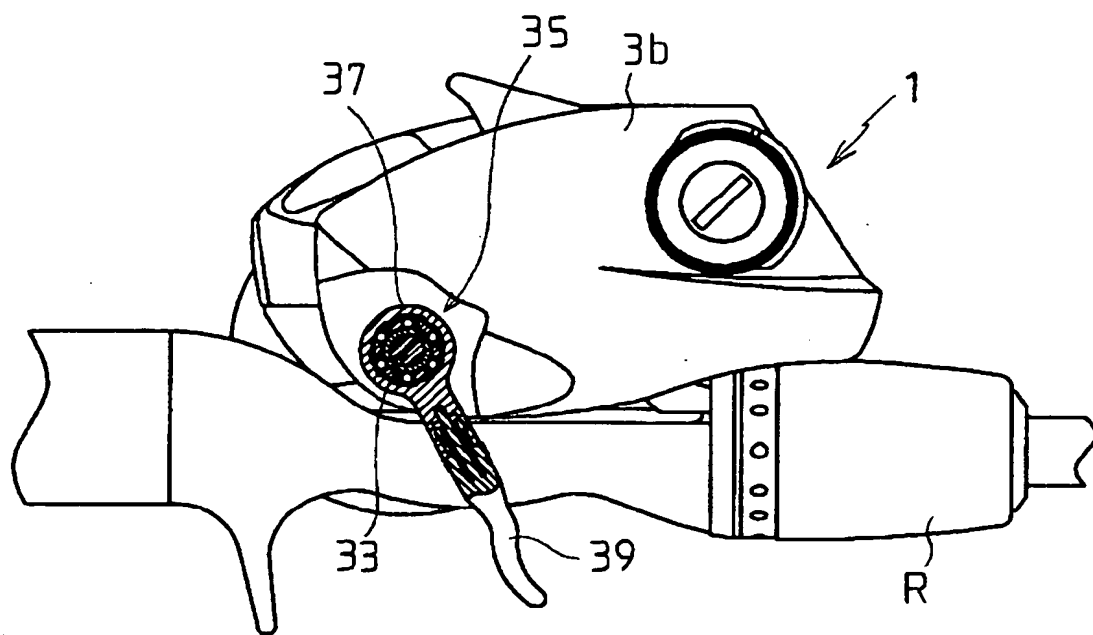
【図4】



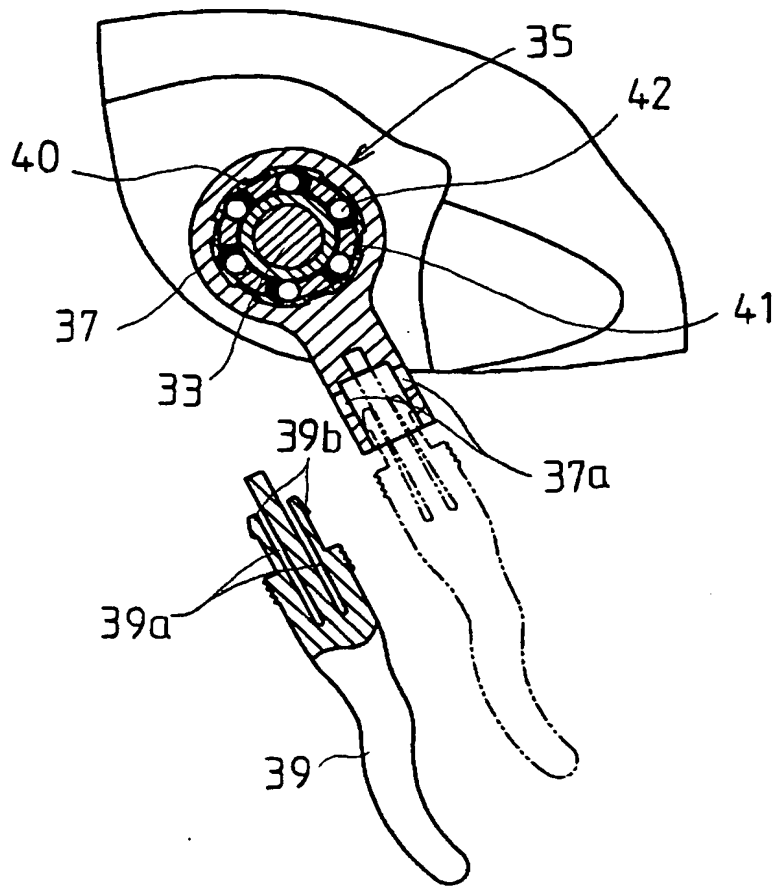
【図 5】



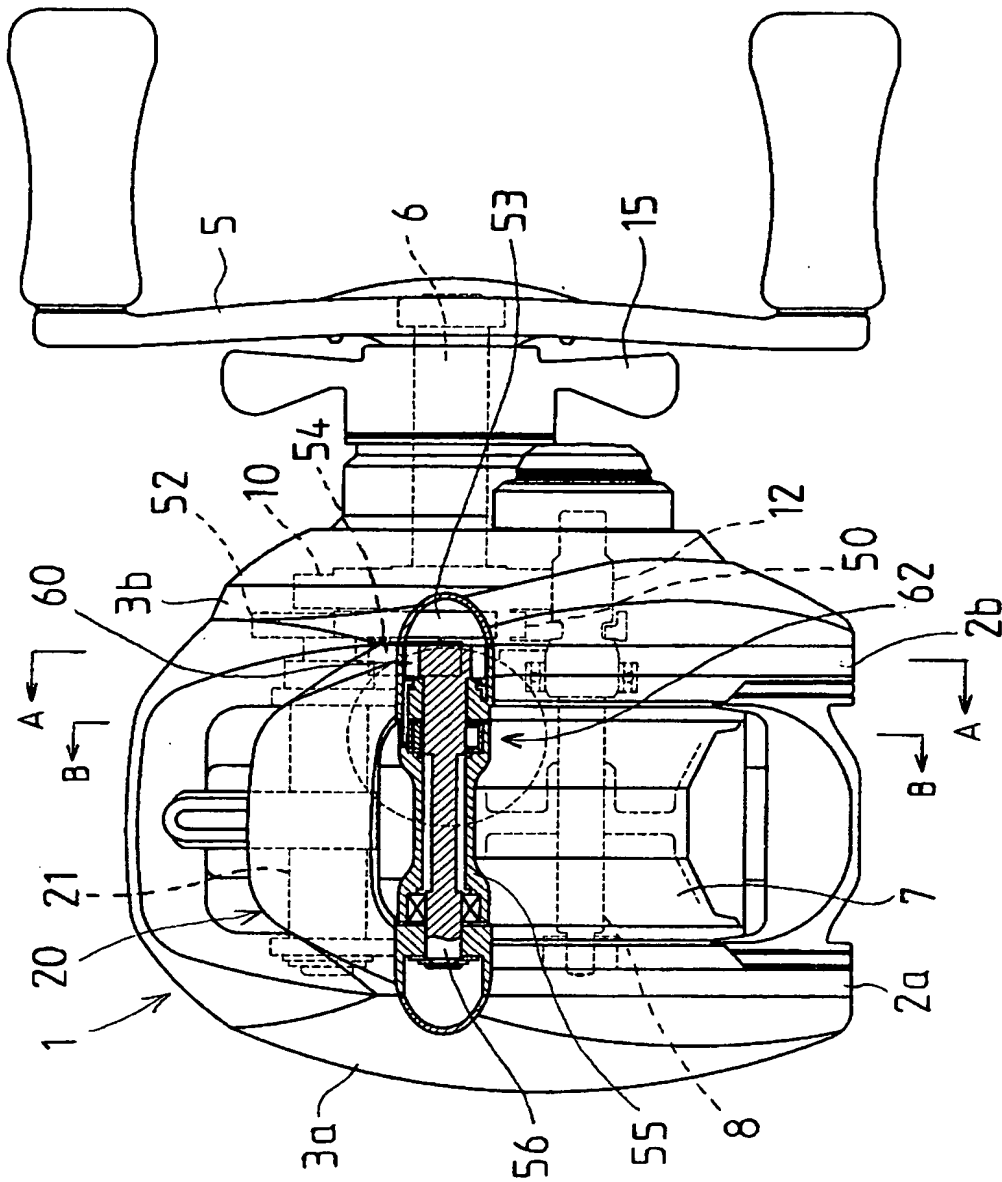
【図 6】



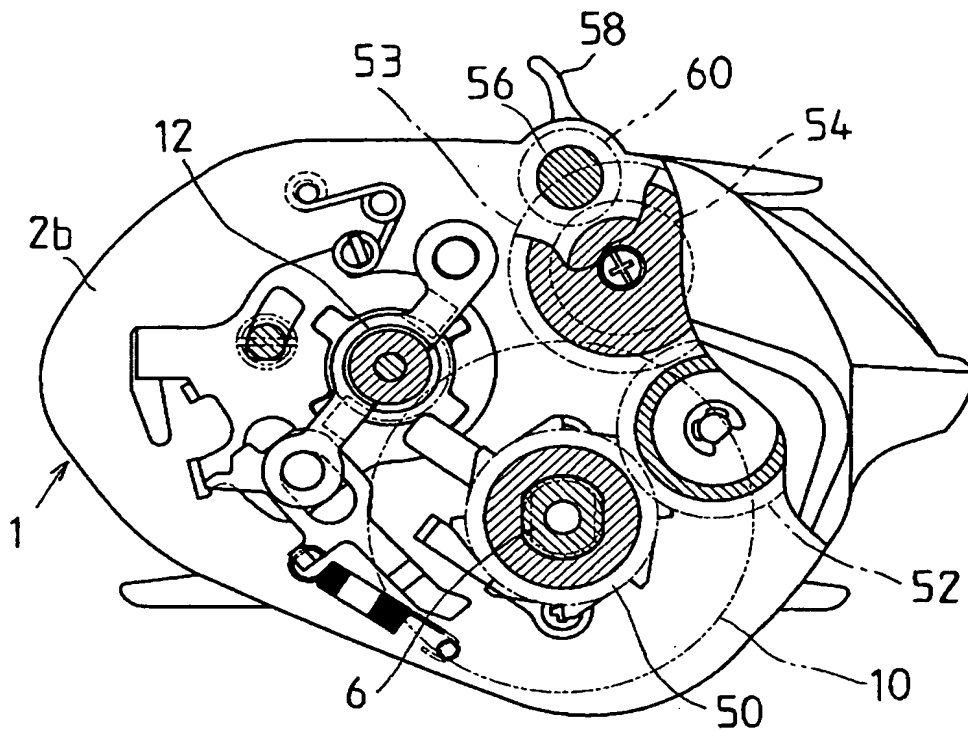
【図 7】



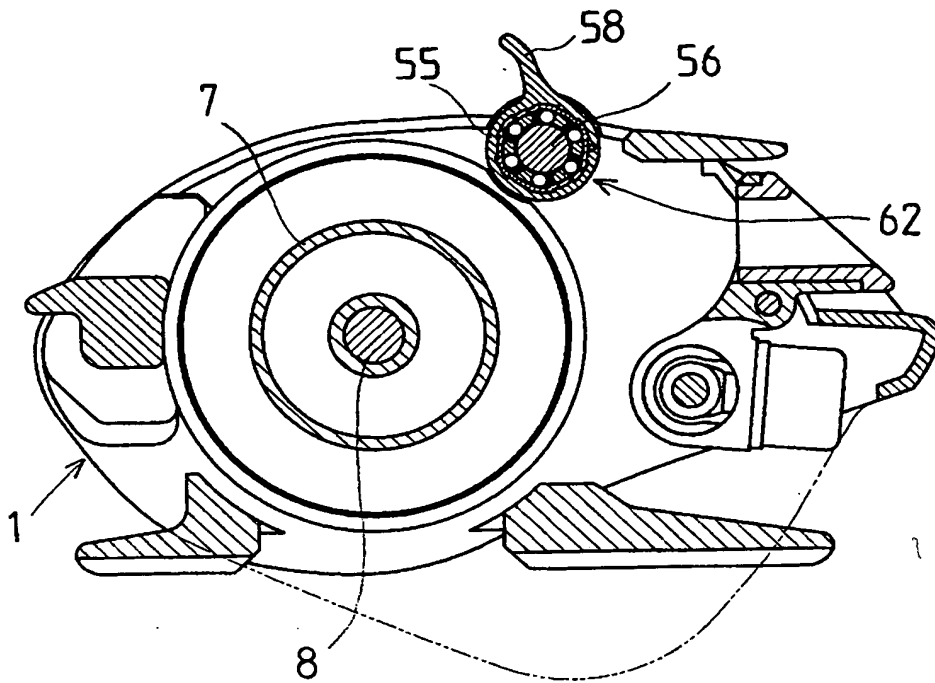
【図8】



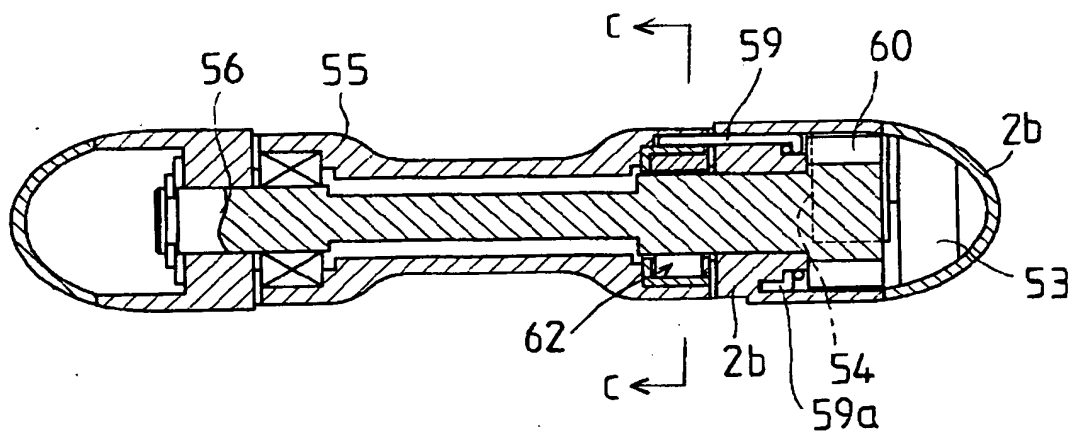
【図9】



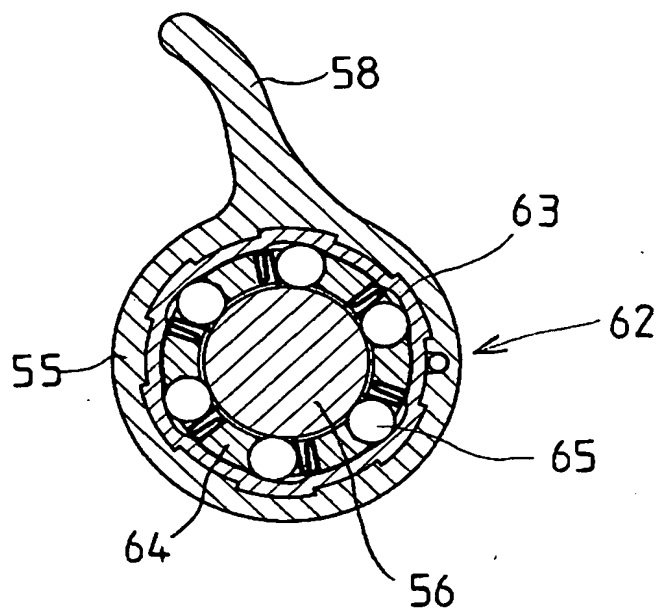
【図 10】



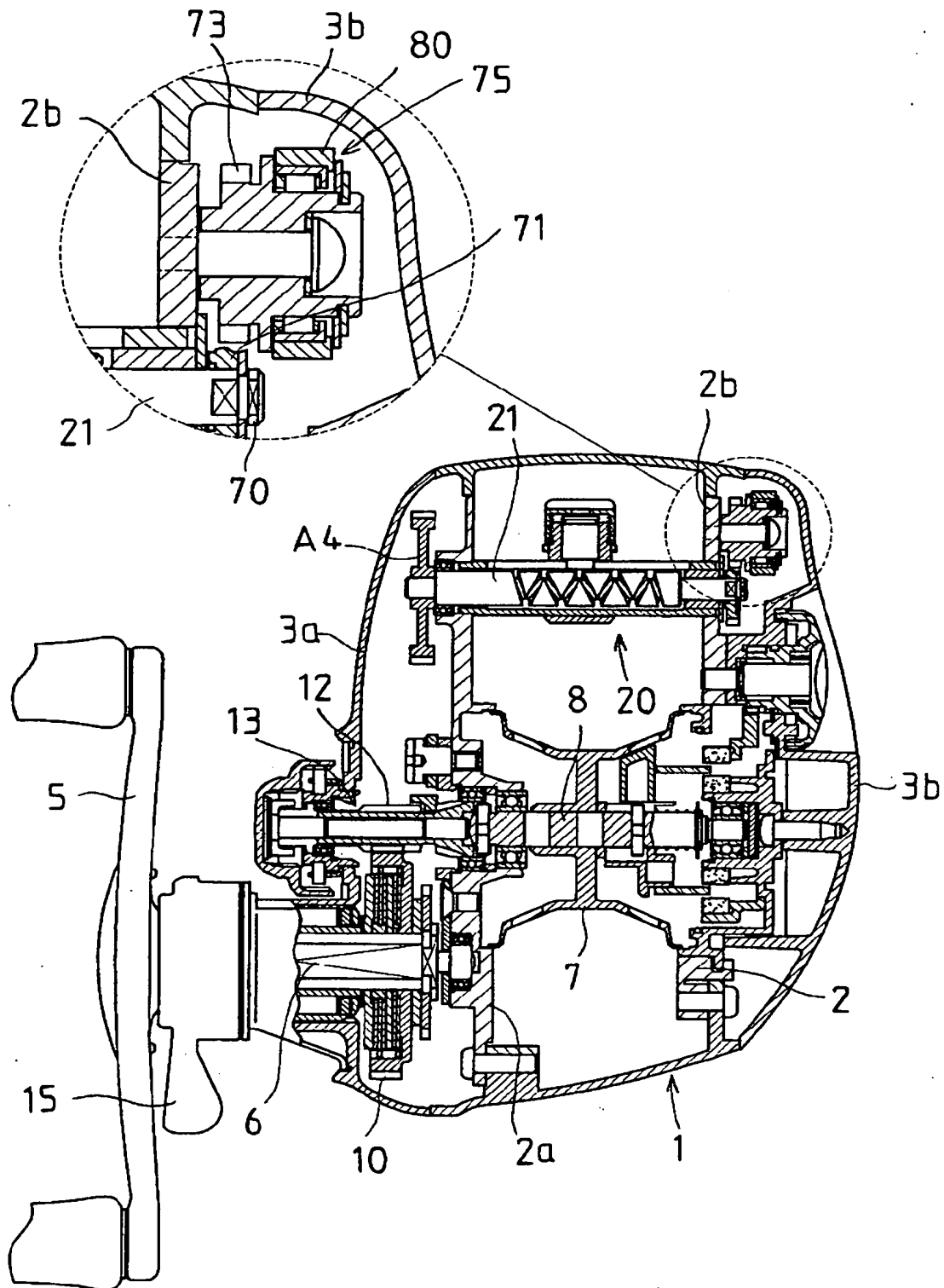
【図 1 1】



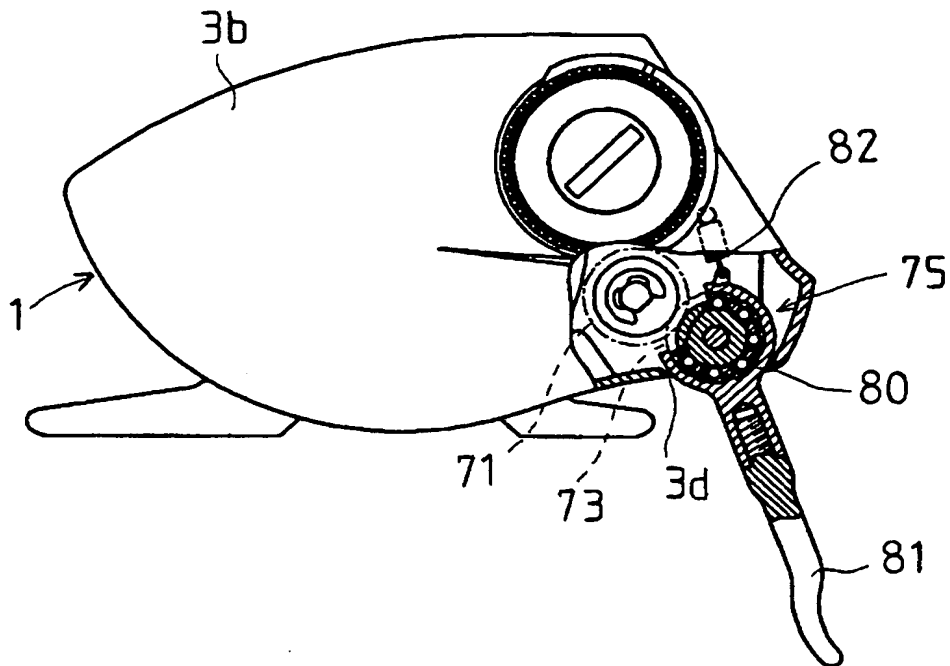
【図 1 2】



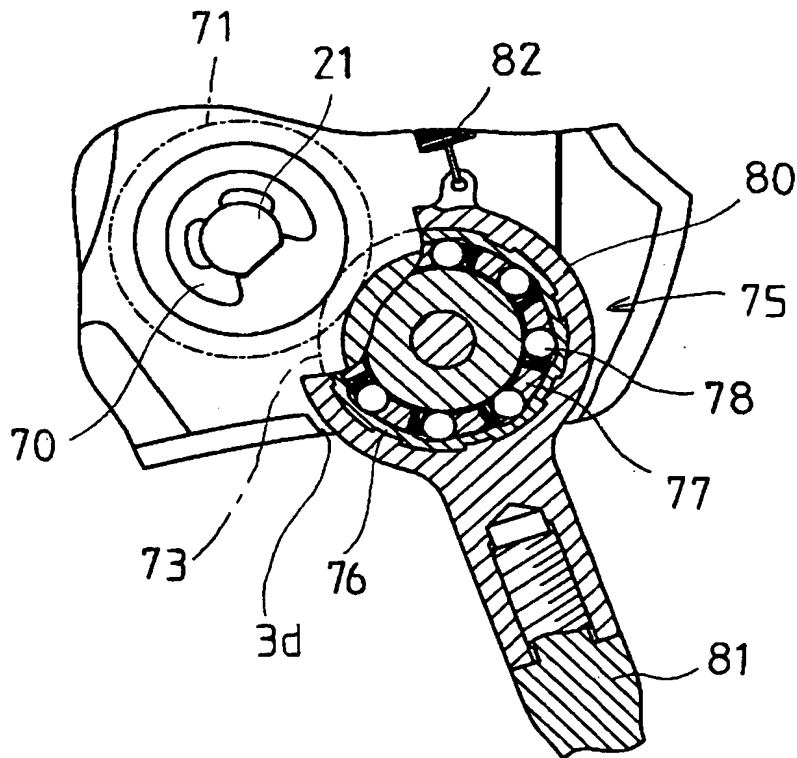
【図 13】



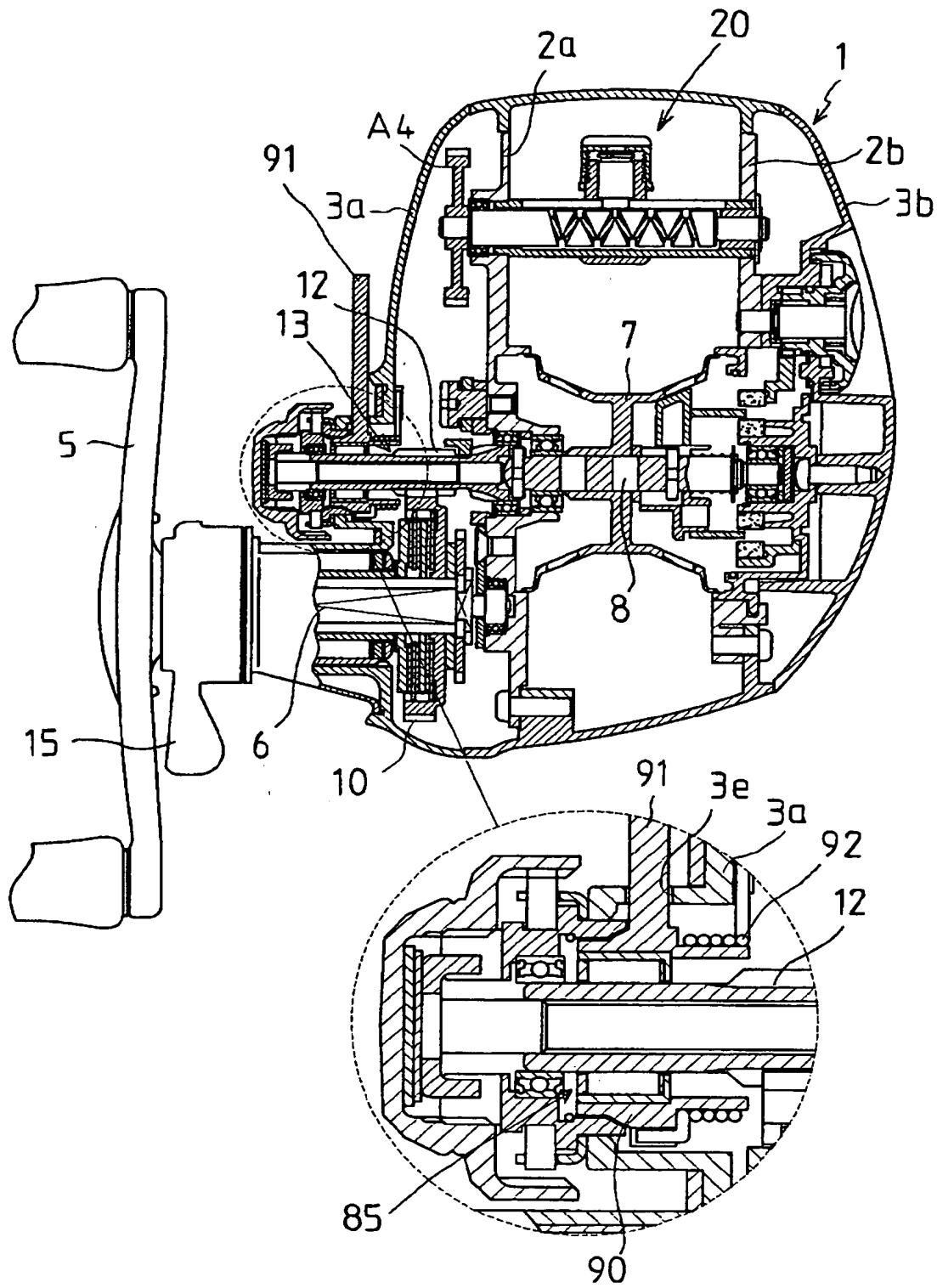
【図14】



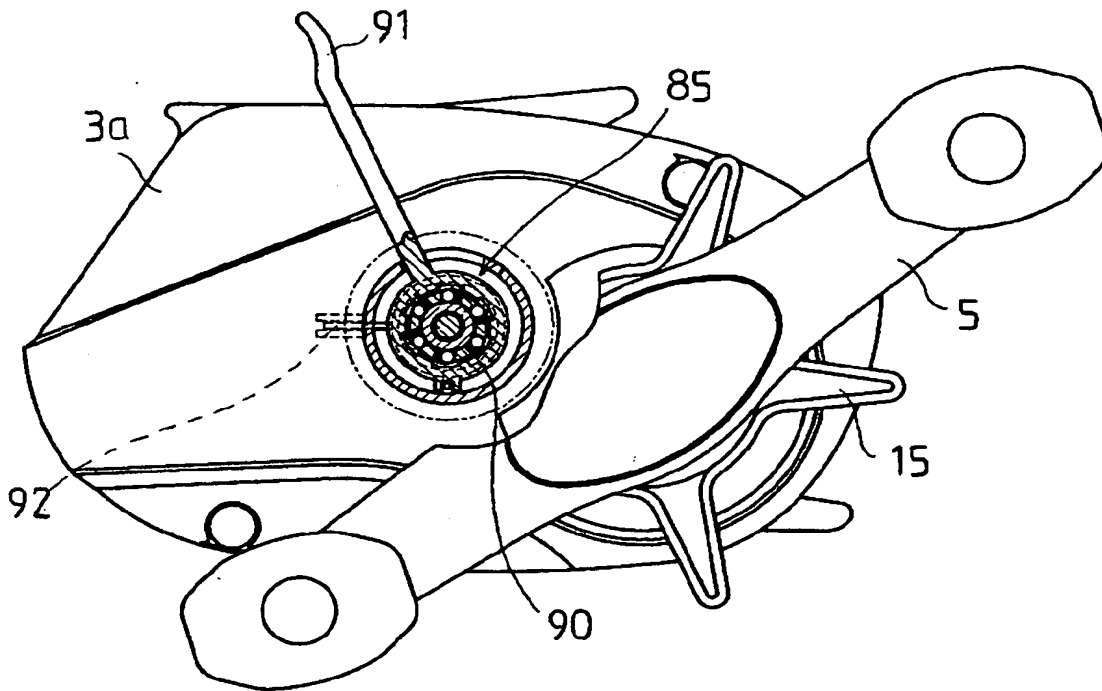
【図15】



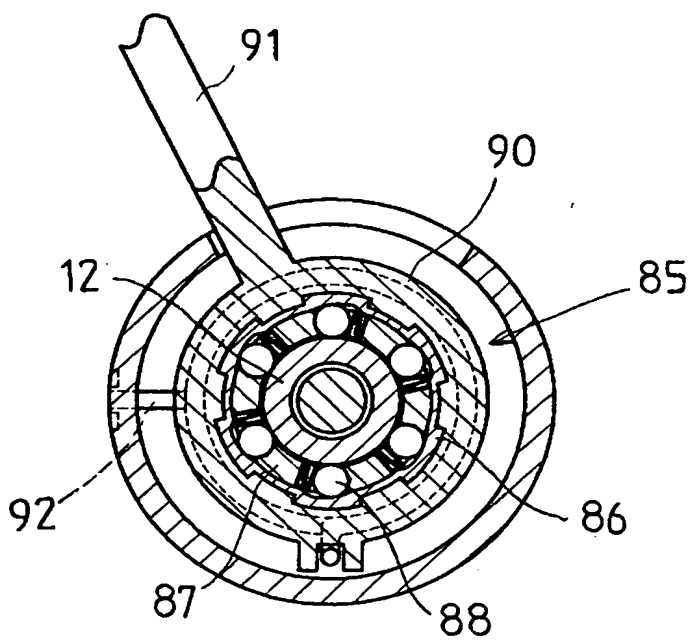
【図 16】



【図 17】



【図 18】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 実釣時において、ルアーアクションを支障無く行える魚釣用リールを提供することを目的とする。

【解決手段】 本発明は、リール本体 1 に設けられたスプール 7 に、リール本体の側部に設けられた巻取り駆動機構 1 3 のハンドル 5 の回転操作で釣糸案内部 2 2 を介してスプール 7 に釣糸を巻回する魚釣用リールにおいて、ハンドル 7 の回転操作で連動回転する回転軸 6 に、一方向クラッチ 2 5 を介して釣糸巻取り用の補助操作部材 3 0 を設けると共に、釣竿を保持した手の指で操作可能な位置に補助操作部材の操作部 3 1 を設け、この操作部 3 1 の操作によってスプール 7 に釣糸を補助的に巻回可能としたことを特徴とする。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002495]

1. 変更年月日 1990年 8月 4日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

氏 名 ダイワ精工株式会社